

標準化人材スキル標準の 策定への試み

金沢工業大学大学院知的創造システム専攻
准教授・弁理士
上條由紀子

調査の背景と目的

<背景>

・「標準化」は、技術の普及、生産効率の向上、互換性の確保、製品の適切な品質の設定など、経済活動において重要な役割を果たすだけでなく、近年の経済のグローバル化の進展ならびに国際標準の重要性の増大に伴い、国際的な市場を獲得するための産業競争力強化のツールとして、標準の果たす役割が大きくなっている。

<調査の目的・ねらい>

- ・標準化人材に必要とされる「**スキル(能力)**」の内容と「**レベル**」の明確化を行って「**標準化スキルスタンダード**」を作成することが目的。
- ・本調査において作成される「**標準化スキルスタンダード**」は、企業にとって、**標準化活動に必要な優れた人材の育成及び確保の目安となり、標準化人材にとって、キャリア形成における目標設定の指標**となることが期待される。
- ・「**標準化スキルスタンダード**」を企業等が活用することにより、優秀な標準化人材を育成して企業の競争力を高め、ひいては我が国産業の国際競争力を強化することが期待される。

調査の概要

・本調査は、経済産業省より三菱総合研究所が受託した「平成24年度国際標準開発事業調査研究事業」のうち、「**標準化人材のスキル明確化に関する調査**」について、金沢工業大学が三菱総合研究所より再委託を受けて実施する調査。金沢工業大学知的財産科学研究所が事務局を務める。

・本調査では、標準化人材に必要とされるスキル(実務能力)の内容とレベルを明確化し、「**標準化スキルスタンダード**」を作成する。

・本調査では、標準化専門家等に対する国内及び海外ヒアリング調査や企業等に対するアンケート調査結果を反映しつつ、標準化専門家やエキスパートからなる「**ワーキンググループ**」において、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を用いた議論を経て、「標準化スキルスタンダード」の素案(β版)を作成する。

・素案の内容につき、「**標準化スキルスタンダード委員会**」(全5回開催予定)において議論・検討を行うことにより、「標準化スキルスタンダード」を完成させる。

標準化スキルスタンダード委員会

< **標準化スキルスタンダード委員会**開催の目的 >

本調査において作成される「標準化スキルスタンダード」は、標準化業務を遂行するために必要なスキル(実務能力)の内容とレベルを明確化するものであり、実際に様々な企業等で標準化人材の育成及び確保の指標としてご活用頂くことを通じて企業の競争力を高め、ひいては日本の産業競争力の強化に資することが期待されます。そのため、企業等にとって活用しやすい「スキルスタンダード」を作成する必要がある。

・「**標準化スキルスタンダード委員会**」は、主に、標準化活動を行っている企業等の標準化業務責任者、標準化専門家、標準化人材育成担当の方、他分野のスキルスタンダード策定経験者の方に委員としてお集まり頂き、「標準化スキルスタンダード」の作成に対してご意見を賜り、その内容を反映させて頂くことにより、完成度の高い「標準化スキルスタンダード」を作成することを目的としている。

本委員会は全5回の開催を予定しており、開催場所は金沢工業大学大学院虎ノ門キャンパスとなる。

調査手法及びスケジュール

- ・本調査では、より広くかつ詳細に実態を把握すべく、本委員会開催のほか、標準化専門家に対する国内及び海外ヒアリング調査や企業等に対するアンケート調査も実施します。また、「ワーキンググループ」によるSNS(ソーシャルネットワークサービス)を用いた議論を行うことにより、本委員会以外の様々な角度からの情報・意見を取り入れる予定。
- ・調査期間は、2012年6月～2013年2月(単年度)

標準化人材の定義

(1)国際標準専門家人材

- (i) ISO,IEC,ITU等の国際会議に出席し、国際規格の策定に携わる人材。
- (ii) 各国政府や国際標準化機関の動向を把握し、国際標準化に関する情報を収集しネットワークを構築し、仲間作りや交渉にあたる人材。

(2)企業内標準化人材

- (i) 企業にて研究開発、製品開発等に従事しながら、規格原案の作成を行う等の標準化業務に携わる人材
- (ii) 企業にてフォーラムやコンソーシアムによる標準化業務に携わる人材
- (iii) 企業にてISO9000やISO14000等の認証取得制度や品質管理(QC)を理解し、適切な対応を行う人材
- (iv) 企業にて標準化活動を技術的側面からバックアップし、支援する人材。
- (v) 企業にて標準化活動を法律的側面(法務・知財)からバックアップし、支援する人材。
- (vi) 企業にて事業戦略、研究開発戦略、知的財産戦略との関連性を認識しながら、経営・ビジネスの観点から競争力強化のツールとして標準化を戦略的に活用する人材。

標準化人材の定義

(3)政策人材

官公庁及びそれに準ずる機関にて標準化政策立案及び実行に携わる人材。

(4)研究者人材

(i)大学・大学院や研究機関にて先端技術分野や学際的分野の研究等に携わりながら、標準化活動(標準化策定プロセス)に参画する人材。

(ii)大学・大学院の学生に対し標準化教育・標準化人材育成を行う人材。

(5)学生(大学・大学院生等)

標準に関する一般的な知識を習得することが期待され、将来、国際標準化専門家人材、企業人材、政策人材、研究者人材となっていく人材。

(6)消費者

消費者の観点から標準の必要性や消費財の品質のあり方に対して提言等を行う人材。

※本調査では、上記(1)～(6)の人材のうち、**主として(1)及び(2)の人材**について調査対象とする予定です。即ち、本調査では「**国際標準専門家人材**」及び「**企業内標準化人材**」を対象とします。

本調査の成果物

<フレームワーク:①業務分類表及び②業務サマリ>

① 業務分類表

「全体マップ」:標準化に関する業務の全体像を分類・整理したもの。

「詳細マップ」:全体マップの業務を下位概念的に具体化したもの。

② 業務サマリ

標準化に関する各業務の概要について簡潔に説明したもの。

<スキル標準サンプル:③評価指標項目及び④内容物サンプル>

③ 評価指標項目

「**業務評価指標**」:成果や仕事の実績・経験に相当する評価指標(例えば責任性、複雑性、重要性、社内外貢献等)。

「**業務能力評価指標**」:知識・能力等に相当する評価指標(例えば、事業、法律、実務、技術、語学、対人等)。

④ 内容物サンプル

フレームワーク中の各業務について業務評価指標及び業務能力評価指標のレベル(段階評価)分けを行い、その内容物を記載したサンプル。

本調査の成果物②

＜標準化スキルスタンダード＞

⑤ 標準化スキルスタンダード

フレームワーク及びスキル標準サンプルに基づき、フレームワーク中の各業務について、レベル毎の業務評価指標及び業務遂行能力評価指標の内容物をすべて記載したもの。

＜期待される成果物の活用方法＞

・本調査の成果物である「**標準化スキルスタンダード**」は、企業にとって、標準化活動に必要な優れた人材の育成及び確保の目安となり、一方、標準化人材にとっては、キャリア形成における目標設定の指標となることが期待される。

・さらに「**標準化スキルスタンダード**」を企業等が活用することにより、優秀な標準化人材を育成して企業の競争力を高め、ひいては我が国産業の国際競争力を強化することが期待される。